レディース大会で記録コンテスト！

～焼津支部の取り組み・その２～

平成２６年７月１３日に開幕した、第１９回静岡県レディース大会。主管した焼津支部では、準々決勝以上の公式記録について「育成枠」で取り組んだ。市内男子１部リーグのチームスコアラーや若手記録員、ベテラン記録員の力試しの場として８名がチャレンジした。

雨にたたられたこの大会は、７月２７日に第２日目を開催。この日は準々決勝と準決勝の記帳に臨んだ。強い日差しと強い風、砂嵐に耐え、真っ黒な顔で集計・点検までの作業を懸命にこなした。

そして迎えた最終日の８月３日は決勝のみ。当初、準決勝からの３試合を予定していたことから、３人のチームスコアラーが決勝の記録を同時にとる「コンテストスタイル」に急きょ変更。手に汗握る好試合を、ソフトボール好きな人にはこの上ない「特等席」で記帳した。

全国でもトップレベルの公認審判員や公式記録員の登録数を誇る静岡県ではあるものの、他に漏れずその平均年齢は年々増加傾向にある。県協会を支える各支部での人材発掘やその育成、裾野の拡大は急務でありながらも、一方では時間をかけた風土の醸成がソフトボールの将来を見据えた上では重要な取り組みであるとも考えられる。２０２０年の東京オリンピックに野球とソフトボールが復活することを願いつつ、プレーヤーや観客、そしてたくさんのファンを支える「縁の下の力持ち」をさまざまな角度から応援したい。本番以外にも、草取りやグラウンド整備、ボール拾い、ライン引きなど、「チーム」での活動で得る達成感は格別だ。そしてその「チーム」は、プレーヤー以上にソフトボールが好きな人たちの集まりに違いない。審判員、記録員の「本当の魅力」を内外に発信していくことが、「復活」への足掛かりにも繋がると信じている。